

2008年6月号

シビル メール ニュース



これまでに配信されましたシビルメールニュースは、「日本大学理工学部土木工学科」のホームページ(<http://www.civil.cst.nihon-u.ac.jp>)より『OB向け情報』→『シビルメールニュース』でご覧いただけます。なお、シビルメールニュースをE-mailにて配信ご希望の方または郵送を希望される方は、卒業年次・氏名・勤務先・配信メールアドレスを明記の上、mailnews@civil.cst.nihon-u.ac.jpで申し込み下さい。

発行責任者 土木工学科教授・教室主任 岸井隆幸

平成 20 年度行事予定決定

第 26 号にも掲載いたしました。今回、入試予定日を含む主な行事予定が決定いたしました。

開催日	行事
6/8 (日)	付属高校生のためのオープンカレッジ (駿河台校舎)
6/28 (土)	理工学部後援会総会
7/6 (日)	大学院入試 (前期<学内推薦・一般第1期>)
7/20 (日)	オープンキャンパス ー駿河台入試フォーラムー
7/22(火)~8/4(月)	前期試験
8/2(土)~8/3(日)	オープンキャンパス (船橋校舎)
8/5(火)~9/28(日)	夏季休暇
8/30 (土)	後援会地方父母懇談会
9/6 (土)	大学院入試 (前期<一般第2期・社会人第1期>) (後期<一般第1期・社会人第1期>)
9/7 (日)	入試説明会 (駿河台校舎)
9/10 (水)	編入学・学士入試
10/19 (日)	A0入学試験
11/1(土)~11/3(月)	学部祭 (シビルエキスポ)
11/2 (日)	オープンキャンパス ー船橋キャンパスウォッチングー
11/15 (土)	付属校・指定校推薦入試 (B方式)
11/16 (日)	公募制推薦入試
11/29 (土)	学術講演会
12/14 (日)	付属校推薦入試 (A方式)
12/26(金)~1/9(金)	冬季休暇
1/17(土)~1/18(日)	大学入試センター試験
1/27(火)~2/9(月)	後期試験
2/11 (水)	一般入試 (A方式)
3/5 (木)	一般入試 (CA方式)
3/7 (土)	大学院入試 (前期<一般第3期・社会人第2期>) (後期<一般第2期・社会人第2期>)
3/25 (水)	卒業式・学位記伝達式

平成 21 年度入試速報

平成 21 年度における日本大学理工学部入試予定日が発表されました。詳しい入試情報は随時更新されますので、下記の日本大学理工学部のホームページをご参照ください。

日本大学理工学部ホームページ : <http://www.cst.nihon-u.ac.jp/>

携帯用入試情報ページ : <http://ao.cst.nihon-u.ac.jp/i/>

各種イベントミニ講義実施予定

付属高校生のための

GST オープンカレッジ 6/8(日)

駿河台校舎 1号館3階134教室

ミニ講義 A (11:00~11:30)

教授 岸井隆幸

都市環境デザイン

—都市計画は土木の世界—

ミニ講義 B (11:30~12:00)

教授 安田陽一

河川環境の改善を目指して

—地球の医者役割—

入試フォーラム 7/20(日)

駿河台校舎 1号館3階134教室

ミニ講義 A (12:10~12:40)

(14:30~15:00)

准教授 鈴木順一

シビルエンジニアの取り組み

ミニ講義 B (12:40~13:10)

(15:00~15:30)

教授 松島眸

湖沼の水環境を守りましょう!

オープンキャンパス 8/2(土) 8/3(日)

船橋校舎 14号館4階1443教室

○ミニ講義 A1(両日) ○ミニ講義 A2(両日)

(11:20~11:50)

(13:00~13:30)

教授 野村卓史

教授 岸井隆幸

竜巻の威力と対策

都市環境デザイン

—都市計画は土木の世界—

○ミニ講義 B1(両日) ○ミニ講義 B2(両日)

(11:50~12:20)

(13:30~14:00)

准教授 羽柴秀樹

准教授 鎌尾彰司

地球観測衛星から見た

ピサの斜塔の秘密

環境・災害の最前線

—構造物を支える地盤—

キャンパスウォッチング 11/2(日)

船橋校舎 14号館3階1431教室

公開講義(11:00~11:30)

専任講師 後藤浩

海の脅威から国土を守る

シビルエンジニアの活躍



土木工学科2年生現場見学会

5月1日に茨城県庁土木部管轄工事現場、5月2日に中日本高速道路株式会社管轄工事現場において土木工学科2年生を対象とした現場見学会が行われました。前者は乙子立体交差事業・圏央道建設事業(江戸崎インター)・桂川河川改修事業・阿見東土地区画整備事業についての見学会で102名の学生が参加しました。後者は第2東名高速道路建設現場(主に橋梁建設現場)にて行われ、54名の学生が参加しました。両見学会共に卒業生の職員の方々から懇切丁寧な対応を受けていました。



現場での説明に聞き入る学生達

土木女子の会開催

4月25日(金)午後6時より駿河台校舎7号館1階食堂にて土木工学科に在籍する女子学生による土木女子の会が開催されました。この会は、年に2回ほど懇親会が開催され、今回は今年初の開催となりました。当日は、約30名の在校生が参加し、学校生活の過ごし方ならびに就職などについて和やかに懇談が行われました。



土木女子の会 懇談会の様子

最近の教員活動状況



山敷庸亮准教授（地球水資源評価研究室）が、2008年3月11日-14日間、世界最大のダムであるイタイプダム（ブラジル／パラグアイ）にて国連教育科学文化機関国際水文プログラム（UNESCO-IHP）、地球環境監査システム淡水部門（UNEP GEMS/Water）、日本水フォーラム（JWF）、水災害リスク・マネジメント国際センター（ICHARM）、日本大学理工学部地球水資源評価研究室（GWRAL）らの共催で開催された第5回ラプラタ川流域ワークショップのオーガナイザーの一人として参加しました。

ラプラタ川流域貯水池管理ワークショップは、1991年にブラジル・サンパウロ大学サンカルロス校にて国連環境計画（UNEP）と国際湖沼環境委員会（ILEC）により第1回が開催されて以来、1994年にサルトグランデダム（アルゼンチン・ウルグアイ）及びブエノスアイレスにて第2回、2001年にヤシレタダム（アルゼンチン・パラグアイ）で第3回、2005年にサルトグランデダム（アルゼンチン・ウルグアイ）にて第4回が開催された後、2006年3月の第5回世界水フォーラムにて世界水アセスメント計画（WWAP）を中心に、世界水フォーラムにあわせてその前年の3月にイベントが開催される旨が合意され、準備会合が2007年3月UNESCOモンテビデオオフィスにて開催されました。うち、第3回から第5回まで山敷准教授がオーガナイザーとして参加し、うち第4回／第5回は日本大学学術助成金「南米ラプラタ川流域における統合的流域管理と水圏生態系に関する研究」の一環としても開催され、同研究成果も広く流域諸国に広められました。

参加した150名ほどの専門家と共に、気候変動に対する流域の応答、人工貯水池の富栄養化、ダム建設における意思決定プロセス、流域の水災害とその制御、ダムと魚道、MELCOSULにおける統合的流域管理などについて積極的に議論しました。ワークショップ最終日にラプラタ川流域ネットワーク（RIGA）のミーティングが開催され、広報活動などを含む流域ネットワーク活動の強化、第6回のワークショップをヤシレタダムで開催すること、他の地域（アフリカや中米）との国際的連携強化などが決められました。

現在まで国連や日本の支援を元にアルゼンチンを中心に動いていた同活動ですが、UNESCO オフィスのあるウルグアイやブラジルの積極的な参加により、今後流域ネットワークの発展が期待されます。



イタイプダム PTIにて開催された第5回ラプラタ川流域ワークショップに集ったメンバー



島崎敏一教授（交通研究室）は、テレビ東京系にて毎週日曜の18:30～19:00に放送されている、高橋英樹、クワバタオハラ司会の「トコトンハテナ」の5月4日放送分に出演しました。その中の「道路の値段ってどうなるの？」で道路ができるまでを紹介しつつ、道路ができるまでの金額や道路の仕組みについても紹介をいたしました。

また、島崎敏一教授は5月に社会法人日本技術士東北支部建設部会主催の研修会において講師として参加しました。



鎌尾彰司准教授（環境地盤研究室）のオランダでの活動を前号に引き続きご紹介いたします。

『オランダの土木技術』

オランダの土木技術といったらなんと言っても真っ先にお話ししたいのは「大堤防」です。オランダは西側が北海に面しており、海からの高潮に対する脅威にさらされております。加えて、前号でもご紹介しましたが、干拓という手法で国土を広げてきているために陸地のおよそ 25%は海水面以下であります。

オランダ国民は 1932 年にアムステルダム北部のゾイデル海に 30 キロメートルを超える堤防を築き、淡水化したアイセル湖を造りました。当初は干拓をおこない陸化させる計画でしたが、現在は高速道路のみとなっております。右最上段の写真がその大堤防です。北海の激しい流れに対して柳の枝を用いて埋め立ての岩や土砂が流されないように工夫しながら施工して約 5 年間で完成させました。大堤防の中央にあるモニュメントのように護岸の石は人力でおこなわれたとのことです。オランダ人の根気強さを感じました。

しかしながら、オランダ南部では 1953 年に死者が 6000 人ほどの大洪水に襲われました。北部では大堤防はしっかりと機能してアムステルダム周辺の被害は少なかったのですが、南部のロッテルダムに近いエリアが大きな被害を受けました。家畜も 10,000 頭以上の被害を受けたそうです。その教訓を元にオランダでは「デルタ・プラン」を作成し、西側の北海との境界にバリアを築く計画を作成し、1957 年から 1994 年までの 40 年をかけて完成いたしました。スヘルデ川には水門が建設され、マース川にはアームの長さが 300 メートル以上もある開閉式ゲート（マエスラント・バリア）が建設されました。いずれも滞在中に視察に行きましたが、巨大なスケールで圧倒されました。その他にもいろいろな土木技術を見て、まさに洪水から国を守るためにオランダの土木技術者は日々闘っているように感じました。このマエスラントバリアは建設後 10 年余りが経過するそうですが、私が滞在しているときに初めて高潮防御のために稼働いたしました。3 メートル程度の高潮だったそうですが、幸いなことに上流の地区では被害はありませんでした。

『おまけ』

オランダといえば、ハンス少年の物語が有名ですが、マドローダムというアミューズメント施設の入り口にその人形を見つけました。また、レーザー光線を利用したスペクタクルショーが夏の夜に行われておりましたが、物語はハンス少年が成長して「デルタプラン」の設計をしてオランダを再び洪水から救うという内容でした。



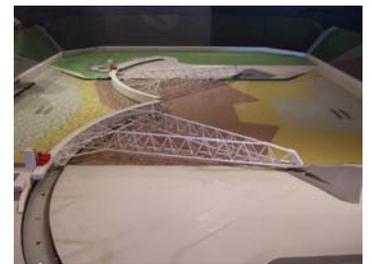
大堤防の様子



大堤防のモニュメント



スヘルデ川の水門



マヌエラント洪水バリア
(模型)



ハンス少年の人形